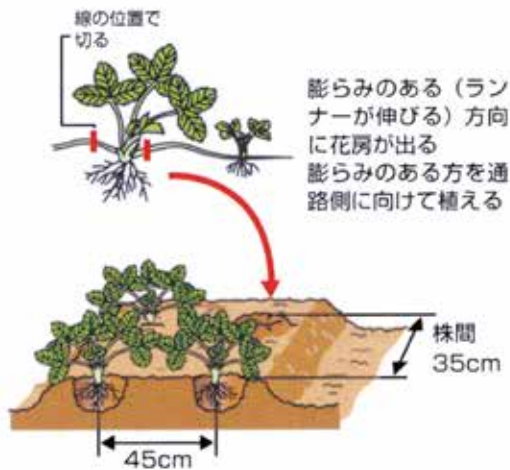
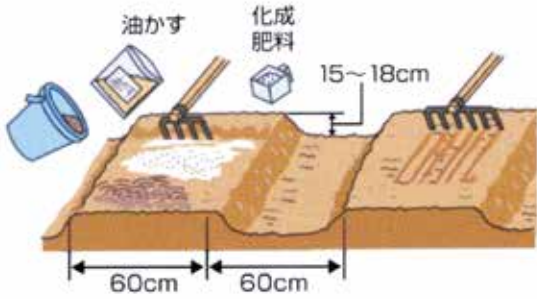
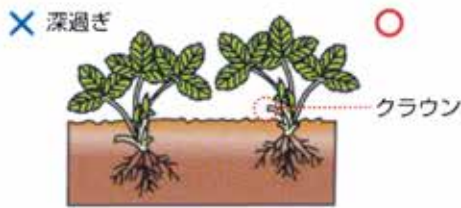




イチゴの植えつけと管理の要点



植え終わったら、たっぷりかん水する



イチゴは苗づくりから始める栽培期間が1年近くもかかり、収穫は露地栽培では約半月で終わってしまふので、家庭菜園では取り組みにくいものでした。しかし、太陽をいっぱい浴びた旬のイチゴの魅力は格別で、育てたいと希望する人は大変多いものです。

幸いなことに、最近ではイチゴ事情がだいぶ変わり、入手が難しかった苗が回り始めました。また、大手種苗会社からは、新品種を含めた数々の品種の苗が販売されるようになり、栽培

に取り組みやすくなったといえるでしょう。

イチゴの植えつけ適期は、10月中・下旬です。早めに苗の購入予約をし、良い苗を確保しましょう。

露地やトンネル栽培では「宝交早生」「ダナー」が従来からの代表種ですが、ハウス栽培や、日当たりの良い軒下でプランターを使う早取りでは「章姫」とよのか」などがいいでしょう。

そのほか、数多くの新品種が大手種苗会社から売り出されています。特性と栽培法を確かめて入手してください。

さい。

植え付け15〜20日前までに、元肥として完熟堆肥(たいひ)と油かす、有機配合肥料、化成肥料などを、ベッド全面に散布し、15〜18cmの深さによく耕し込みます。

イチゴの根は肥当たりが大変弱いので、植えつけまでに肥料が十分に分解していることが大切です。プランターの場合は、ピートモス主体の専用培地を用い、肥料含有量を確かめ、少ないようならば、事前に油かすと化成肥料を少々補います。未熟な腐葉土や有機質

「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

*設置店舗：総合営農経済センター
片貝営農センター
千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!
探したい項目を指でタッチ!!

板木技術士事務所 ● 板木利隆